

# 世界で勝負するなら、『英語の品格』を鍛えよ！

近年の英語教育は、日本人が苦手としてきた「話す積極性」の養成にばかり重点が置かれ、話す内容の支柱となる読解力、記述力についてはあまり議論されていない観がある。では、実際に国際舞台の最前線で活躍する上ではどのような英語力が要求されるのか。「本物の英語」を教える専門塾として定評のある「平岡塾」の卒業生お二人に語り合っていた。

## 平岡塾

男女御三家をはじめとする名門校の生徒が数多く通い、東大合格率80%以上の圧倒的な実績を誇る英語専門塾。だが、大学入試対策に特化した指導ではなく、将来、海外の研究者やビジネスマンと対等に渡り合える「折り目正しい英語力」の養成に力を入れている。実際、卒業生の多くが国際舞台の第一線で活躍している。

## 気品ある英語でなければ最前線では通用しない

—これまでの経歴と、現在の仕事の内容からお聞かせください。

**大久保** 東大法学部在学中に司法試験に合格。司法修習を経て、国際案件を多く扱う現在の事務所に入りました。2005年からは、シカゴ大学のロースクールに留学し、ニューヨーク州の弁護士資格を取得。2年間、ボストンとニューヨークの法律事務所勤務した経験もあります。現在の主な業務はM&Aで、英語で契約交渉などを行っています。

**加藤** 一橋大学法学部在学中に司法試験に合格し、司法修習を経て現在の事務所に入りました。私も業務の中心はM&Aで、海外

企業が日本企業を買収する際のサポートや、日本企業が海外で事業するにあたって生じた紛争の解決などにも携わっています。

—業務の中で、どのような英語力が求められると感じていらっしゃいますか。

**大久保** 欧米相手だけでなく、アジア諸国も含めて、すべての国際取引の場面において、完全に英語がグローバルランゲージになっています。しかも、海外のプロフェッショナルと対等に渡り合うには、単に意思の疎通ができるというレベルの英語力では不十分です。文法が5%間違っているだけで、ネイティブにとっては違和感がありますし、どんなにすばらしい内容の話であっても、それが幼稚な表現だったら、軽く見られてしまいます。完璧な文法で、気品



風格のある言い回しを使いこなせなければ、国際ビジネスの最前線では通用しないのです。例えば、早く返事を下さいというときに「Please reply ASAP.」でも通じますが「Your reverting to us at

your earliest convenience would be much appreciated.」と書くことができる。それが品格のある英語ということですね。

る傾向があるのですが、現実の業務においては、時差の関係もあって、メールがコミュニケーションツールの中心になることが多いです。「読む・書く」力をおろそかにしてはならないと思います。

## 「受験英語」ではなく「文化としての英語」を学ぶ塾

—平岡塾で学んだことが役立っていると感じられることはありますか。

**大久保** 平岡塾で学んだからこそ、現在、国際案件を扱う弁護士として活動するための資力が身についたといっても過言ではありません。当時学んだ「品格のある英語」が完全にベースになっています。平岡塾の最大の魅力は、先生たちが「受験英語」ではなく、「文化としての英語」を教えるという雰囲気にあふれていたことです。授業の中で、読んだ英文の背景が

熱く語られ、自然と海外文化への興味が高まってきました。社会に出て、外国人と話をするとき、芸能、スポーツも含めて、社会的な話題にまったく無関心なようでは、良好なコミュニケーションを図ることはできません。政治ネタのジョークなのに、背景事情を知らないがために笑えないようでは、相手にしてもらえないのです(笑)。逆に、相手の文化を踏まえた話題を盛り込めれば、会話に厚みが生まれるわけです。

**加藤** 国際的な案件を取り扱っているとき、膨大な英語の資料を読み込むことが求められます。私とその作業に抵抗感がないのは、平岡塾で大量の英文を読む習慣が身についていたからだだと思います。「ドン・キホーテ」80日間世界一周、ラッセル、オーウェル、デカルトなど、ストーリーがおもしろく、表現が良質な文章が

## 塾生同士や講師との交流が現在も続く

—平岡塾は、教室に座卓が並び、生徒は思い思いの席に座る「現代版寺子屋」のような感じの授業でも知られています。

**加藤** ときには先生が生徒の輪の中に入ってきて、気軽に質疑応答することもありました。自然と先生と生徒、生徒同士の距離も近くなり、アットホームな雰囲気

醸成されていきます。週1回だけの授業だったにもかかわらず、今でも当時の仲間と連絡を取り合っています。実は私は、学生時代に平岡塾で講師を務めていた大久保の授業を中学の頃に受けていたのですが、今こうして同じ事務所ですぐに働いているのも平岡塾がたまたま縁だと思っています。裁判官と弁護士のどちらの道に進むか迷っていた時期があったのですが、大久保に相談したところ「弁護士になれば、平岡塾で培った英語力を活かすことができるよ」とアドバイスされたことが、決め手になりました。そうした交流が続くことも、平岡塾の魅力だと思います。

—最後に、中高生へのアドバイスをお願いします。

**大久保** IPBA(環太平洋法律協会)の大会が京都で開催されたとき、同時通訳が手配されました。海外では考えられません。日本人の英語力不足の証明であり、恥ずかしいことです。国際社会で活躍するには英語力が不可欠であることを肝に銘じて、努力を続けてほしいと思います。

**加藤** 楽しみながら学ぶことが英語上達の第一歩だと思います。ドラマ・映画・ネットを活用したり、積極的に海外に出かけたり、自分なりに工夫して英語学習を進めてほしいですね。



長島・大野・常松法律事務所 弁護士 加藤 奈緒さん

長島・大野・常松法律事務所 弁護士 大久保 涼さん